

# 社会人向けオンライン大学院に適した オンライン研究ゼミと研究ゼミシートの提案

Proposal for an Online Research Seminar and Sheet  
Suitable for an Online Graduate School for Working Professionals

宮下和子\*  
Kazuko MIYASHITA\*

平岡斉士\*  
Naoshi HIRAOKA\*

\*熊本大学教授システム学研究センター  
\*Research Center for Instructional Systems, Kumamoto University

〈あらまし〉 社会人向けオンライン大学院に在籍する博士後期課程学生には、通学型のフルタイム大学院学生とは異なる困難さがある。第一に研究時間の確保が困難であること、第二に、学位取得に対する優先度を高く維持が困難であること、第三に、偶発的な対話の機会が得られないことである。これらの課題を抱えながら研究を進めるためには高度な自己マネジメントスキルが必須である。そこで、本研究では、社会人向けオンライン大学院に在籍する学生の研究推進を支援するために、オンライン研究ゼミ及びゼミに連動したゼミシートを設計する。

〈キーワード〉 オンライン大学院, 社会人大学院生, 自己マネジメント, ゼミシート

## 1. はじめに

社会人向けオンライン大学院に在籍する博士後期課程学生には、通学型フルタイム大学院学生とは異なる困難さがある。第一に、社会人大学院生は何足も草鞋を履いており、そもそも研究時間の確保が困難である。第二に、日々生じる緊急度の高いタスク対応に追われる状況が多い、及び、すでに職業を持っている社会人は学位取得に要する期間への制約度合いが、フルタイム学生とは異なる場合もあり、その場合特に研究活動に対する優先度を高く維持することが困難となりやすい。第三に、オンライン大学院であることから学生同士、及び、学生と教員との偶発的な対話や相談の機会が得られない。したがって、対話のための日程調整が必要など、議論を行うためのハードルが高く、また、雑談の機会も得難い。これらの困難を伴いながら研究遂行し続けるためには高度な自己マネジメントスキルが必須だが、通常の研究指導だけでは支援が十分とは言い難い。

そこで本研究では、社会人向けオンライン大学院に在籍する学生の研究推進支援として、2種類のオンライン研究ゼミおよびゼミに連動したゼミシートを設計し、その有効性を高めていくための形成的評価(鈴木 2002)を実施する。

## 2. 研究ゼミシートの設計

研究ゼミシートは3種類から構成される。一つ目は年間～数年間の長期的な目標を検討するための目標設定シートである(表1)。

表1 目標設定シートの項目

目標	
いつまで	
目標のブレーク ダウン	

目標設定シートは、記入しながら長期的な研究計画を策定するための下書き的な位置付けであり、目標数に応じて右に列が増えていく。

次に、この目標設定シートで検討した各目標に対し、マンスリーシート(表2)に月毎の目標へと具体化させる〈計画〉。計画の段階で達成の見通しを立てることで、より確度の高い目標設定とすることを狙いとしている。

表2 マンスリーシートの項目

計画	振り返り
・目標	・達成できたか
・達成の見通し	・その理由や有効 だった方略
・イベント等の マイルストーン	・達成できなかった場合は、今後の 対策

また、あらかじめ分かっている学会日程や自業務に関するイベント等のマイルストーンを設定しておく。また、毎月末にこのマンスリーシートに、当月の振り返りを記入する<振り返り>。ここでの振り返りは、コルブの経験学習モデル(Kolb 1984)の、内省的観察及び抽象的概念化の段階に該当する。振り返りの段階では発散と収束を推奨しており、一旦紙等に自由に書き出し、発散的に言語化させた後に、表2<振り返り>の各項目についてマンスリーシートに記述する。

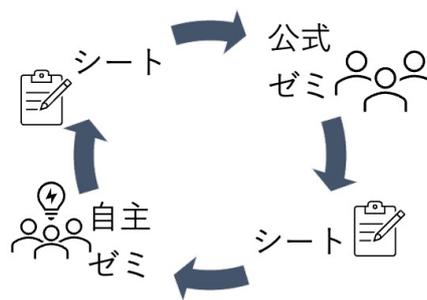


図1 ゼミとシートの連携

### 3. 2種類のゼミ

オンラインゼミとして、指導教員が参加する公式ゼミと学生のみが参加する自主ゼミの2種類を開催している。公式ゼミは研究指導の場であり、月に1回程度不定期に開催している。参加学生は社会人であるため、昼休憩での開催という時間の制約上、指導教員からフィードバックを得たい論点に絞っておくことが望ましい。そこで、自主ゼミでは、公式ゼミの効果・効率を高めるための下準備の場として、学生同士で解決できる疑問点を事前に解消しておく、研究に対する相互フィードバックの実施、特に議論がない回は各自の作業タイム等として活用している。また、自主ゼミは隔週末で開催しており、ペースメーカーとしての機能も果たしている。

この2種類のゼミの開催タイミングと連動して、表3に示す項目についてゼミシートへ記入する。ゼミシートは、ゼミ開催直前に前回ゼミからの振り返りを記入し、ゼミ終了直後に、次回ゼミまでの計画を記入する(図1)。

表3 ゼミシートの項目

振り返り (今回の目標に対して)	計画 (次回までの目標に対して)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・何割位進められたか</li> <li>・できていること</li> <li>・できていないこと</li> <li>・有効な方略</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回までに進めること</li> <li>・できそうか</li> <li>・使ってみたい方略</li> </ul>

自主ゼミでは、直前2週間の進捗報告と共に、試した方略の中で研究遂行上有効と感じた方略や今後試す方略についても共有する。シートの記述内容の共有や相互フィードバック、方略の共有等を通して、シート活用の動機づけ向上及びシートの活用スキル向上を指している。

指している。

長期的には、ゼミ開催のタイミングに限らず、日頃から自身の研究進捗状況をモニタリングし、次に進むための有効な手立てを講じるサイクルを継続的に回せるようになることを目標に起きつつ、まずは本稿で提案する3種類の研究ゼミシートと2種類のゼミを活用することで、自己マネジメントスキルが向上し、研究進捗が向上することを狙いとしている。

### 4. 対象者

本研究で提案するオンライン研究ゼミ設計と研究ゼミシートの開発にあたり、社会人向けオンライン大学院に在籍中の博士後期課程学生3名に形成的評価を依頼した。

### 5. 評価方法

本研究で提案する研究ゼミとシートの導入前をベースラインとして、導入後2ヶ月毎に形成的評価を実施し、ゼミ設計および研究ゼミシートの改良を重ねていく。その際の評価観点として、研究に対して費やした時間、研究遂行に有効と感じた方略の数、指導教員との意見交換の頻度、研究に対するモチベーション、進捗実感、改善すべき点等についてフィードバックを求める。また、エキスパートレビューも組み入れる。

### 参考文献

Kolb, D. A. (1984) *Experiential Learning: Experience as the Source of Learning and Development*, Prentice Hall.  
 鈴木克明 (2002) 教材設計マニュアル. 北大路書房, 京都